

職人の「心」と磨き抜かれた 「技」で高品質な価値を提供 取引先の悩みを聞き、できるまで挑戦する

村澤製作所

くまがた jcm!

村澤製作所(世田谷区奥沢、村澤康秀社長、03・3723・0620)は、昭和38年に先代がプレス加工によるカメラ部品製造を皮切りに創業し、昭和48年7月に法人設立。現在は、職人の長年培われた経験と技により、デジタルカメラの周辺精密部品、胃カメラなどの医療機器部品等の小型・軽量の超精密部品の製造を行っている。

高度経済成長とともに、日本のお家芸ともいえるモノづくりの職人技を磨き、ますます高度化する光学部品や電子部品、医療部品分野のニーズにきめ細かく対応できるように、より微細で精密な加工に絶えず挑戦している。一般的に精密部品の製造過程では設計、金型の製造、部品の加工などのそれぞれ独立した会社が請け負っているが、同社では、全てを一貫して対応することができ、多品種少量生産にこだわり、その金型の数は1500にも及ぶ。

同社は、仕事に対する心構えとして、「目先の大量受注、利益に振り回されるな」「メーカーや担当者が悩んでいることを親身に聞き、相談してあげる」として「その悩みを商品にすべく最後まで諦めずに挑戦して要望に



「最後まで諦めずに挑戦する」と村澤社長



職人の「心」と磨き抜かれた「技」が同社の強み

応えること」を掲げている。これは、先代からの教えを、村澤社長が忠実に受け継いでいるものだ。

零細企業では、後継者問題などにより、高度な加工技術を持つ事業先が廃業に追い込まれている。そのため、代わりに製品の製造を引き受けてくれないかとの依頼が増加しているが、村澤社長は、同業の仲間を心から心配して、たとえそれが難しい依頼であっても「なんでも挑戦する精神」と「磨き抜かれた匠の技」で自ら引き受けている。

今日、多くの日本の大手製造業が、中国、ベトナム、フィリピンなどに海外移転しており、同社にも東南アジアへの進出の話もあったが、断固として断っている。プレス技術の「職人技」と、目先の損得ではなく人との出会いを大切にしている「職人氣質」。これこそが、同社が、今日もあくまでもプレス加工による超精密加工の可能性に挑戦し、「新しい価値」を創造し、発展し続けている原動力である。